

内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

⑰「多様性（論）」の陥穽?!改めて、そこには「統一（統合）性（論）」との真摯な向き合いが必要?!

I：過日、テレビ（録画視聴）で、かの「ギフテッド」についての番組を見ました！折角、他人より優れた頭脳とか、技能を有しているのに、他ならぬそのことのために、孤立していったり、社会での「自己の居場所」が見つけられなかったり（ちょっと意外でしたが?）、というような話でした?!

D：いわゆる「IQ（知能指数）」が高い（高過ぎる?）人のことかと思いますが、ある意味皮肉なことに、それが原因で、他の「普通」の人との交わりが出来ず（息苦しくて?）、徐々にその関係から遠ざかって（離れて）いく?!そういうことでしたよね?!

I：まあ、流れとしては、そういうことでしたが、最後に、彼らが言っていたことは、「仲間」、言い換えれば、「自分のことを分かってくれる人」がいれば、生きていける！確か、そのようなことが、メッセージとしてありましたよね！何故か、グッときましたね！

D：これに関しては、例の「EQ（情動指数）」のことが頭を過りますが、いずれにしても、彼らの存在からも、まさしく現代社会の病理のあり様（「多様性」がもたらす混沌 or 苦悩?）が見えてくるようにも思いますね?!

I：私には、そうしたことは、つぶさには分かりませんが、一方で、その話は、近年大いに議論の俎上に上っている「LGBT（Q）」のこととも重なってくる?!これまで見ていなかった（抑圧されていた?）、「新たな（カミングアウトした?）」人々の存在（生き方）を、社会がどう受け止めればよいのかということですが…?!

D：まさに、そういうことかと思いますが、他方で、これまでの価値観や能力評価等に依拠してきた人々の側では、そこに焦りや不安が生じる?!だから、非難したり、攻撃したり、あるいは敢えて反対のことをアピールしたりする（婉曲的に?ある時は陰湿に?）?!私なりの言い方ですが、そこで生まれる（はずの?）、いい意味での「多様性論議」が出ていない?!端的には、一方の「統一性（この場合は「統合性」か?）」の視点が、全面的に「悪玉」「諸悪の根源」みたいに扱われている?!

I：その双方の「意義」、あるいは「共存?」の仕方みたいなものが論議の中心とはならず（かの「同調圧力」だけがやり玉に挙げられ、それが論議の陥穽となっている?）、結局は、「Aか、Bか!そして、こちらの方がよい!」という言い方や価値観に、いつの間にならなくなっているということですね?!

D：話は、かなり膨らんでいきますが、しかも、そこには、かの「グラデーション（段階的・漸次的分布）」がある！だから、常に、そのことを意識していなければ、社会や人間関係は成り立たない（危険でもある?）?!そういうことですよ?!例えば「国（家）」とか、「婚姻（制）」とか、「男女（制）」とかというものは（それがあから、一方で、ごたごたとか、不都合とかが生じてくるのであるが!）、一つの「社会的知恵」として、我々人間社会には必要である！だから、「制度」として維持されていかなければならない（そこには、「統一／統合性」が保持されていなければならぬ!）!

I：つまり、「多様性」の主張ばかりでは、社会は成り立っていない?!ただし、一方の「統一（合）性」ばかりが主張されるなら、それもまた、おかしいことになる?!そういうことですよ?!ひょっとしたら、かの「ギフテッド」達は、そのことが分かっていた（少なくとも、感覚的には?）?!

D：ということで、これから本当に必要なことは、一方を否定したり、攻撃したり（ただ言葉尻を捕まえて非難したり、排斥したりするようなことも含めて!）、あるいは、上辺だけの「物わかりの良い振りをした」言動をすることではなく、「双方の要素が、何故必要なのか」を真摯に論じ合い、そこから解決策（着弾地?）を手繰り寄せる?それが大事なのではないかということですよ!本当の「仲間（理解者）」は、そうやって生まれてくるものではないでしょうか?!

（つづく）